



こんにちは。日増しに暖かくなってきましたね。今年の春は花粉の飛散量が多いと言われています。3月頃から大量に飛び始めるとのこと。早めの対策をして乗り切りましょう。

Vol. 9 No. 34 February 2025

院長のひと一言



「その習い事は必要ですか？」

前の号で「学校選び」について書かせていただきました。幸いにして好評でしたので、今回は今の子ども達の習い事について、私なりの考えを述べたいと思います。

子どもの発達には、エリクソンやフロイト、ピアジェなど過去の偉人たちをはじめ、多くの学者により研究され、新しい知見が蓄積され続けています。難しく理解しにくいことも多いですが、私なりに噛み砕き、診療に生かしています。これをもとに現在、診察室で診る子どもたちに懸念を抱いているのが、「遊び」と「睡眠」です。

まず「遊び」ですが、子どもの「遊び」と大人のパチンコやゲームソフトとは根本的に違います。小さく生まれた赤ちゃんは手遊びをはじめ、まず自分と遊びはじめ自分を知っていきます。そして母や兄弟と遊び、安定した世界を自分の中に創ります。その後それを土台にして同じ世代の子どもたちと遊び、その世界を広げていきます。どのステップも早回しはできません。じっくり時間をかけて熟成させていく。日本小児科医会が「スマホに赤ちゃんの子守をさせないで」と呼び掛けているのは、このためです。

少し成長してくると「お勉強」がでてきます。「この子のために！」と習い事に通わせようとする父母が出てきます。例えば勉強ができなくて困った、泳げなくて困った、英会話ができてなくて悔しい思いをしたなど、ご自身の体験をもとに、「そんな思いをさせたくない」との思いから。しかしそれは、もしかして「この子のため！」ではなく「自分のリベンジのため」ということになっていませんか。

人生に必要不可欠な「子どもの遊び」を犠牲にした習い事は、本末転倒と言えましょう。どのような人生でも自立した生活が送れるよう導くのが親の最大の務めと考えます。

「睡眠」についてはこの次に。

日本脳炎ワクチン忘れていませんか？

日本脳炎は、日本脳炎ウイルスにより発生する疾病で、蚊を介して感染します。

対象年齢

第1期：生後6か月（標準年齢は3歳）～7歳5か月

第2期：9歳～12歳11か月

地域によっては日本脳炎の報告があり、生後6か月から開始しています。また、供給不足のため第2期の接種を見合わせていた期間がありましたので、もれている方がいらっしゃいます。母子手帳を確認してみてくださいね。





食物アレルギー、アトピー性皮膚炎、ぜんそくなどの呼吸器疾患の専門医である平井康太先生に、今回、「食物アレルギー」について寄稿していただきました。



みなさん、こんにちは。アレルギー専門医の平井です。

今回は、**新生児-乳児食物蛋白誘発胃腸炎**という食物アレルギーの一種についてお話しします。いわゆる食物アレルギーと呼ばれる病気は即時型と言われ、食べて多くは30分以内にじんま疹や咳、嘔吐などが誘発され、重症だとアナフィラキシーにいたる病気です。これは血液中のIgE(アイジーイー)という抗体(はたらく細胞のおかげで知っているお子様も増えています)が反応して起きています。

しかしながら新生児-乳児食物蛋白誘発胃腸炎は簡単にいうと消化管型アレルギーとされていますが、IgE が関与していない病気と考えられています。ですので、特定の食物を摂取してから2時間以降に嘔吐や下痢などの消化器症状のみで発症し、最初は胃腸炎と間違われることが多いようです。この病気では数時間後に嘔吐を繰り返しますが、その後は元気になっていることが多いです。胃腸炎では24-48時間は嘔吐することが多いのでここで胃腸炎ではないことがわかる可能性が高いです。原因の食物は人工乳や母乳が多いのですが、最近では卵黄が増加傾向にあります。また、この病気はご家族が気にされていないと診断がつきにくいことや、医師の中でもまだ認知が低い病気でもあります。でも安心ください、(はいてますよ…もとい)、はしもと小児科にはアレルギーに詳しい先生が多いので気軽にご相談ください。

子どもの窒息(ちっそく)事故に注意しましょう！



成長期のお子さんにとって、季節の食材をたくさん食べて、元気になることは大切なことです。

ここで注意したいのは子どもの窒息事故です。1歳から4歳までの子どもの事故で、**一番多いのが「窒息」**で、二番目が「交通事故」、三番目が「溺水(できすい:おぼれること)」です。窒息事故は、母子健康手帳にも「チャイルドマウス」の記載があるように、注意喚起されています。つまり、39mm(約4cm)以下のものは、子どものまわりに置かないことです。4cmは、ちょうどトイレットペーパーの芯の直径です。トイレットペーパーの芯の大きさよりも小さいものは、誤飲や誤えん(のどに詰まること)の原因になるため注意しましょう。また、ある程度の大きさがあり、のどに詰まって窒息しやすい食材を表にまとめました。これらの食材は、子どもが小さいうちは、与えないようにしましょう。

● 子どもが窒息しやすい食材

プチトマト(4等分で提供可)、乾いたナッツ・豆類、
うずらの卵、あめ類・ラムネ、
チーズ(球状)、大粒のブドウ、さくらんぼ、餅、
白玉団子、いか



看護師伊藤

掲示板

臨時休診のお知らせ 3/23(日)~3/30(日)、4/19(土)

※はしもと小児科ホームページからも「ひなたぼっこ」をダウンロードできます。

